

Q-AOS Brown Bag Seminar #10 質問に対する回答

※個人情報に関わる表現等を削除させて頂いております。ご了承下さい。

質問 1:

東南アジアのエネルギー転換（傾向）へ COVID-19 パンデミックが及ぼす今後のプラスとマイナスの影響は何だとお考えになりますか？

私は東南アジアの今後の動向については慎重ながらも楽観視しています。その理由の 1 つはこの地域の多くの国々が自国の経済を支援するために COVID-19 リカバリー・パッケージを設定しようとしていることです。これはまた素晴らしい機会です。再生可能エネルギー発電コストの継続的な低下 (<https://www.irena.org/publications/2021/Jun/Renewable-Power-Costs-in-2020>)、主要ドナー国の気候緩和政策の最近の変化（例：中国や日本のような国のカーボンニュートラル目標）、および欧州連合（そして潜在的には米国も）の COVID-19 リカバリー・パッケージの前向きな例は、一部東南アセアン諸国に「グリーン・リカバリー」のために投資を行うよう決心させる可能性があります。国際エネルギー機関も Covid-19 がエネルギー効率、公共交通機関または次世代のクリーンエネルギー技術（グリーン水素など）への投資を増やす良い機会となる事を指摘しています (<https://www.iea.org/articles/the-impact-of-the-covid-19-crisis-on-clean-energy-progress>)。一方、エネルギー部門のガバナンスがまずい状態は依然として地域全体に広がったままです。また化石燃料への補助金や電力セクターの非効率性など、気候緩和の重要な課題のいくつかは経済危機の際に対処される可能性がさらに低くなりえます。

質問 2:

判りやすいご講演ありがとうございました。東南アジア諸国は急速に成長、また石油/ガス生産国（インドネシア、マレーシア、タイなど）も同様に急成長しています。石油/ガス生産国におけるエネルギー変換の良いモデルを教えてくださいませんか。

気候緩和の観点からいうと、最善の解決策は石油とガスは地中にとどまるべきという事は一目瞭然です。その他の問題は、こうした鉱床の多くが紛争地域（南シナ海など）にあること、またはそれを利用するために多大なインフラ投資が必要になること（例えば LNG 施設）です。しかしこうした地域の政府がこのような資源から利益を得ようとしない可能性は非常に低いと思われます。理由の一つは、日本やドイツのような重要な先進工業国が天然ガスを石炭火力に取って代わり中期的な排出削減を達成するのに役立つ重要な「橋の燃料」と見なしているためガスの国際需要がすぐには減少しないという事です。大きな石油/ガスセクターを持ち、同時に野心的なクリーンエネルギー目標を達成しようとしている最も有名な例の国の 1 つはノルウェーです。化石燃料の輸出から利益を得る一方、家ではクリーンエネルギーを進めていく、ここには明らかに大きな矛盾があります。しかしノルウェーは国内のエネルギー移行がかなり進んでいます。たとえば、一人当たりの電気自動車のシェアは世界で最も高く、ほぼ 100%再生可能エネルギー（水力）を利用しています。さらに、他の多くの資源豊富な国々を悩ませている「金利生活者国家」現象を回避するために、ノルウェーの化石燃料輸出の収益は、将来のノルウェー世代の利益のために世界中の株式市場に投資する主権国家資産ファンド（「石油ファンド」）に投資されています。